

2025年4月8日（火）

老球の細道862号

### 新年度を迎えて

会津バスケットボール協会 室井 富仁

昔の童話にあったように爺様は山に芝刈りに、婆様は川に洗濯に行った時代はどうに終わってしまった。山に行けばクマや山林火災に合い、川に行けば水に流される危険が待つ。爺婆の高齢者はどこに行っても危険が待ち受けているが、孫と一緒にいれば安全である。

この春休みも孫たちと楽しく過ごすことができた。猪苗代町の「アクアマリン・カワセミ水族館」に行き色々な魚や動物を観察した。金魚展の企画があり、珍しい表情の金魚がたくさんいて、孫と私が共通で知っている知人の名前をつけて楽しんだ。

体力トレーニングとして河東プールで水泳もした。孫たちの世代の子ども達はほとんどいなくて、私と同年代の高齢者たちが黙々とプールの中を歩いたり、泳いだりして身体を鍛えていた。孫に「華麗な」泳ぎを見せようと思ったが、2年ぶりの泳ぎで、なおかつ腰の手術後初めてだったので思うように前に進めず「加齢なる」泳ぎになってしまった。

バスケットの練習も孫たちは意欲的に自主トレーニングに励んだ。宮沢賢治の「雨にも負けず」ではないが、あいづ体育館の外のコートで寒く、小雨が降っていても、朝早くからシュート練習を1時間くらいがんばった。私はひたすらボール拾いに徹し、褒めて、褒めて、褒めまくった。今後のプレイにどれだけ好影響を与えるかは神のみぞ知る。

孫たちの春休みが終わり新年度がスタートした。毎年同じことの繰り返しであるが、バスケットボール界においても色々な組織、チームが新メンバーを迎え、心機一転から飛躍へのスタートとなるので、とても重要な時期である。今年度も色々な変化が起こるだろう。

ミニバスケットにおいては、3月末の全国大会で初の3Pルールが採用された。当初、ゴールの高さ、ボールの大きさも変わると言われたが、3Pルールの変更だけとなった。今後これらのルール変更が全国大会のみならず地方大会まで波及するのではないだろうか。

中学校においては国民的課題である「部活動の地域移行」が果たして現実化されるかどうか。当初の予定では25年度に完全移行だったが現実には難しい。わが会津若松市はモデル地区になっているようだが、スムーズに進行しているという話は関係者からまだ聞けない。

高校においては中学校と同様の問題が起こってくるかもしれない。部活動を指導する先生が少ない、少子化で部員が少ない。それに加えてクラブチームやBリーグのU-18ユースチームの成立で学校の部活動への影響が心配される。高校の部活も地域移行になるのか。

Bリーグでは、来年度から新設される「Bプレミアリーグ」のために色々な改革が行われることが予想される。NBAとも連携し世界第2位の観客、収益を誇るトップリーグにする構想がある。まさに令和の日本のトップスポーツはバスケットボールになるかもしれない。

もうすぐ桜の季節がやってくる。死ぬまでにあと何回見れるかわからないが、満開の鶴ヶ城の桜を見るのが楽しみである。と同時に、新メンバー、新コーチを擁する各カテゴリーの新チームの試合を見ることも楽しみである。「桜咲き 夢はコートを かけめぐる」。